令和６（2024）年度大学院教育学院修士課程第２次入学試験問題

外国語（日本語）

（１００点満点）

以下の問題１、問題２のすべてに答えなさい。

問題１　課題文Ⅰを読み、以下のすべてに日本語で答えなさい。

1.　レシャード・カレッドさんは、どこの国の出身ですか。
2.　レシャード・カレッドさんは、日本のどこに留学しましたか。
3.「私は『カネさえあれば何でもできて幸せになる』という迷信、『武力さえあれば身が守られる』という迷信から自由である。」は、誰の言葉ですか。
4.　この文章に書かれているレシャード・カレッドさんの経歴、気持ち、考えなどの変化について、古いものから順に整理して２００字以内で述べなさい。

［出典：「天声人語」、『朝日新聞』2023 年 12 月 5 日］

問題２　課題文Ⅱを読み、以下のすべてに日本語で答えなさい。

1.　「EEA は一つの環境ではなかった」（傍線部ア）という考えに対する著者の意見の要点を、３０字以内で述べなさい。
2.　目指すべき「社会のあり方」（傍線部イ）に関する著者の見解の要旨を、２５０字以内で述べなさい。

［出典：長谷川眞理子『進化的人間考』東京大学出版会、2023 年、pp. 133-140.］

課題文Ⅱに関する注.

１）第１４章　この著書の、「ヒトの適応進化環境と現代人の健康」という名称の章。
２）第１１章　この著書の、「三項表象の理解と共同幻想」という名称の章。
３）三項表象の理解　「私」と「あなた」と「外界」という三つがあり、「私」が「外界」を見ていて、「あなた」も同じその「外界」を見ている。そして、互いに目を見交わし、互いの視線が「外界」に向いていることを見ることで、両者が同じその「外界」を見ていることを、了解し合う。このように、「外界」に関する心的表象を共有していることを理解し合う、ということである。例えば、子どもがイヌを見て指さし、「ワンワン」と言う。そして母親を見る。母親もそちらを見て、また子どもと顔を見合わせ、「そうね、ワンワンね、かわいいわね」と言う。このようなことである。